

錫杖岳ピークハント 平成21年7月20日(月)

メンバー: I.O, K.O(記) 天候:晴れ

コースタイム:槍見温泉駐車場 4:40 - 錫杖谷出合(6:10 - 6:15) - 岩屋 6:45 - 二俣(7:40 - 7:55) - 鞍部 8:45 - 錫杖岳P3峰(10:00 - 10:35) - P2峰 - 錫杖岳山頂 11:05 - 錫杖岳P2(11:40 - 11:55) - 鞍部 12:40 - 二俣(13:10 - 13:25) - 岩屋 14:10 - 錫杖沢出合(14:40 - 14:55) - 槍見温泉駐車場 16:05

概要:この3連休を利用して、錫杖岳から北尾根を經由して笠ヶ岳まで登る計画を立てた。しかし、甲信越地方は梅雨明けのニュースとは裏腹に、一転して18日から天気は戻り梅雨となり計画を中止した。しかし、日曜日になって、飛騨地方の20日(月曜日)の天気は一旦回復するとの予報、天気図とにらめっこしながら、最終的に、明日の月曜日は、晴れると判断。日帰りで、錫杖岳を往復する計画を立て、19日午後4時、急遽自宅を出発した。

行き的高速道路は千円効果による渋滞と梅雨前線による集中豪雨の中の運転となったが、槍見温泉に着くと天気は回復、星空が広がっていた。

車の中で仮眠し、朝4時起床。4時40分に出発した。錫杖沢出合いまで約1時間半、沢の水量はかなり多い。沢登りスタイルを用意したことは正解であった。今日は沢登りも楽しめそうだ。錫杖沢の岩小屋までは、勝手知った道のみ、30分程で岩小屋に至り、休憩無しで上部の二俣を目指した。二股で大休止。右股を偵察する。すぐに滝があるが、まき道はしっかりしていた。この分だと、左右どちらの沢にもルートを取ることができそうである。ネットで調べた記録報告にも、どちらでも可能との記載があった。記録によれば、右から合流する沢の場合は、上部で左に笹を藪こぎして、左の沢に合流するとのことである。参考に、信頼できるルート地図を、末尾に引用しておくことにする(赤の波線が右股ルート)。

さて、私達は左にルートを取った。途中、大きな石の挟まったところを岩登りしなければならないが、足場はあるので、慎重に登れば問題はない。この箇所、かなり痛んだ残置ロープがあるが、これに体重をかけてしまうのは危険である。この滝を過ぎてしばらく登ると、やがて水が枯れ、しっかりした沢筋に沿ってルートをとると、やがて笹藪となり、踏跡に従って笹を漕ぐと鞍部に到着した。鞍部には、記録に掲載されていた枯れた立木があった。写真参照。

これから先も目印が多いのでルートを見失うことはない。すべてルートは、左側(飛騨側)に取られている。P4の下部辺りにガレた斜面があるが、しっかりしたロープが残置されているので安心できる。P4を過ぎ、さらに登ると樹林帯が切れ、錫杖岳P3?に到着した。頂上にはピッケルが固定して立てられているので、何か印象的である。ここからのパノラマは素晴らしい。但し、ここは本峰でも南峰でもない。

一応、私の調べた範囲での知識であるが、地形図上では、本来南峰とは、大木場ノ辻手前のピークを差しているようである。P3から見て、前方に見える岩峰P2の基部に、山頂を示す標識(写真参照)が設置されていたが、ここを錫杖岳本峰とするのは間違いであろう。本峰はさらに先である。

なお、当初は、3日間かけて北尾根を經由して笠ヶ岳まで縦走する予定であったが、今回の経験から、この計画はかなり厳しいことが分かった。本峰から先はかなり難渋しそうである。その点において、雨によるとは言え、中止したことは正解であった。



早朝の前衛フェース



錫杖沢



まるで沢登り



二股手前から前衛フェース



コルの枯れ木



ニコウキスゲ



P5 P6



P1 P2



錫杖岳P3より穂高連峰を望む大パノラマ 西穂高岳～槍ヶ岳までが一望に見渡せる



すごい眺めだなあ～



P3頂上にあるピッケルと笠ヶ岳



烏帽子岩を眼下に望む



P2基部にある標識



錫杖岳ルート図 [footprints](#) より
(RCCII 新版日本の岩場(ヤマケイ刊より一部抜粋))

